

2016年8月25日

報道関係各位

環境配慮オフィスビル「コープ共済プラザ」 竣工1年で56%のCO2削減を達成

日本生活協同組合連合会
日本コープ共済生活協同組合連合会

日本生活協同組合連合会(略称:日本生協連、代表理事長:浅田克己)と日本コープ共済生活協同組合連合会(略称:コープ共済連、理事長:佐藤利昭)は、この度、環境負荷の低減に配慮したオフィスビル「コープ共済プラザ」の稼働1年を経たCO2削減データを取りまとめましたのでご報告させていただきます。当施設は2015年5月にコープ共済連の本部として竣工致しました。

本格稼働を開始した、2015年6月～2016年5月までの1年間の測定値は、**CO2排出量317t/年(月平均:26t)**となり、環境配慮型のビルでない場合の想定CO2排出量736t/年*に対して**56%の削減を達成致しました。**これは、当初の目標であった335t/年をさらに下回るCO2排出量です。

*CASBEE2010 年度簡易版 用途別CO2排出量基準値の事務所用途による。

		2015年6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
電気	kWh	53,465	67,349	61,001	50,100	48,648	48,266	51,622
都市ガス	m ³	3	34	2,418	2,412	0	202	3,152
CO ₂ 排出量	t	23	29	31	26	21	21	28
1m ² あたりのCO ₂ 排出量	t	0.0026	0.0033	0.0036	0.0030	0.0024	0.0024	0.0033

		2016年1月	2月	3月	4月	5月	年間累計	月平均
電気	kWh	50,294	47,297	54,583	51,240	46,243	630,108	52,509
都市ガス	m ³	4,576	4,795	2,898	401	2,729	23,620	1,968
CO ₂ 排出量	t	31	30	29	23	25	317	26
1m ² あたりのCO ₂ 排出量	t	0.0036	0.0035	0.0034	0.0026	0.0029	0.0366	0.0031

「コープ共済プラザ」は、環境への配慮と高い事業継続性の確保を目的に設計されています。外観に「グリーンブラインド」を配し、植物による日射遮断や気化冷却効果を図るほか、床下に設置したパイプに夏には冷水を、冬には温水を流す「床噴出空調&天井スラブ放射空調」、デスク周り天井を同時に照らす「タスク・アンビエント照明」、太陽熱や低温排熱を冷房に利用できる熱源システムなど、CO2削減のための環境に配慮した様々なテクノロジーを採用しています。

日本生協連とコープ共済連では、今後とも誰もが安心してらせる地域社会・コミュニティづくりの実現のため、環境・エネルギー問題の解決に取り組んでまいります。

■「コープ共済プラザ」概要

- ・所在地: 東京都渋谷区千駄ヶ谷 4-1-13
- ・建築主: 日本生活協同組合連合会
- ・設計・監理: (株)日建設計
- ・施工: (株)フジタ、(株)きんでん、(株)前川製作所
- ・敷地面積: 1,556.80 m² / 建築面積: 1,216.15 m² / 延べ床面積: 8,652.86 m²
- ・階数: 地下2階 地上8階 塔屋1階



<お問い合わせ先>

日本生協連広報部 TEL:03-5778-8106